

「地方の活性化とユビキタスネット社会に関する懇談会」第2回会合 議事要旨

1 日時

平成 18 年 12 月 14 日（木）10:00～12:00

2 場所

総務省 8 階第一特別会議室

3 出席者

(1) 構成員（五十音順、敬称略）

清水座長、会田構成員、飯泉構成員（代理：町田地域振興局長）、清原構成員、小谷構成員、近藤構成員、島田構成員、須藤構成員、滝構成員、坪田構成員、露木構成員、永吉構成員、秦野構成員、和才構成員

(2) ゲストスピーカー

笠松上勝町長

(3) オブザーバー

文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省

(4) 総務省

谷口大臣政務官、寺崎政策統括官、勝野大臣官房審議官、今林地域通信振興課長、植松地方情報化推進室長、中田地域通信振興課課長補佐

4 議題概要

(1) 開会

(2) 構成員紹介と配布資料確認（事務局）

- 構成員の出欠について
 - ・ 前回欠席で、今回より出席の構成員の紹介：須藤構成員、和才構成員
 - ・ 今回欠席の構成員：大山構成員、植村構成員、村木構成員
 - ・ 飯泉構成員の代理で町田地域振興局長が出席
 - ・ 総務省より、勝野審議官が出席
- 配布資料の確認

(3) 前回議事要旨について（事務局）

資料 2-1 について、前回議事要旨の確認。

- 岩手県河合町の表記は、「川井」が正しいので、修正して欲しい。

(4) 議題

○ 滝構成員からの意見発表

資料 2-2 および VTR について、滝構成員からの発表の後、質疑応答を行った。

【質疑応答】

- 地方には、外食産業やレストランを専業で行っている店と旅館や民宿と一緒にいるところがある。地方への出張や旅行をする消費者に、情報が適切なタイミングで伝わるのが重要。
- Google のサービス開始が 1999 年であるのに対し、ぐるなびは 1996 年にサービスを開始した。サービス開始当初より、我々はインターネットを用いて消費者に無料で情報を提供するいわゆる Web2.0 型のビジネスモデルを展開してきた。今後、これまで主流だった不特定多数を相手にしたものではなく、前向きな人たちが集まる SNS を作ることを目指したい。
- 高齢者や障害者の IT 利用をサポートする講習会を実施しており、携帯電話の便利な使い方を例示するのに、「ぐるなび」を使っている。高齢者向けメニューがある店や障害者が入店しやすい店など、高齢者や障害者の方への対応をお願いしたい。
- 車椅子や子供・ペット連れでも利用できる、地産地消の食材を使っているといったきめ細やかな検索が可能になれば、小規模事業者もぐるなびに参加して、競争力を持てるようになるのではないかと。
- 50 歳以上を対象にした「シニアぐるなび」というものがあり、字が通常よりも大きかったり、生活習慣病など健康対策の視点が盛り込まれたりしている。また、子供と一緒にいける店を検索できる「ベビなび」というものもあり、同サービスでは食育などの情報提供も行っている。

○ 永吉構成員からの意見発表

資料 2-3 について、永吉構成員からの発表の後、質疑応答を行った。

【質疑応答】

- 震災後に立ち上がった NPO に参加したのは、神戸市と大企業であった。しかし、大手企業は地元の NPO に関わるメリットがなく、次第に離れていった。一方、地元の中小企業は、域内の産業活性化に自社の今後を委ねているようなところがあり、彼らが参加を継続したことで NPO が存続した。行政が、地元企業の事業内容を理解した上で、地元企業を中心に集めて行うのがよいだろう。
- 中小企業であれば社運をかけた社長クラスが議論に参加してくれるが、大企業では地域担当の部長・課長クラスがお付き合いで参加するだけなので、議論に深みが出ないことがある。また、こうした取り組み自体を好きな人がいるかどうか成功に大きく影響するという属人的な側面もある。

○ 笠松上勝町長からの事例紹介

資料 2-4 について、笠松上勝町長からの発表の後、質疑応答を行った。

【質疑応答】

- このモデルを成功させるためには、ノウハウ、例えば、株式会社いんどりと農家との情報のやり取りや商品の品質維持に関するものなどが蓄積されていることが重要。多数の視察を受けているが、未だに真似されていない。

- 昨年「日本で最も美しい村」連合を立ち上げた。フランスの「最も美しい村」活動をモデルにした。人口概ね1万人以下で、景観や環境、文化といった地域資源が2つ以上あり、それらを活かす活動があることが加盟の条件である。各市町村と、連携は取り合っているところであり、具体的な成果がでるのはこれからである。

○ その他連絡事項

次回（第3回）は、来年1月中旬～下旬を予定している。

以上